

事業報告

経費の節減、収益の確保に努めつつ、自己負担金4億560万円のほか、(公財)日本海事センターからの補助金5,000万円、日本内航海運組合総連合会からの補助金1,300万円、(一財)内航海運安定基金からの補助金400万円など海事関係団体のご支援をいただきながら、海技教育支援及び当該学生等に対する学資金の貸与等、海技教育の普及を図るための事業を実施した。

I. 海技教育支援事業

1. 学生等募集支援事業

(1) 広報活動の充実強化学業

近年の若年人口の減少に伴い、(独)海技教育機構の各校における生徒・学生募集活動は厳しさを増していることから、定員確保に向けた広報活動を強化するため、各校の担当者等に対して、進学専門業者による「広報担当者育成に係る研修」をWebにて実施した。

(2) 進学情報サイトの活用事業

Webサイト「13歳のハローワーク公式サイト」の特集記事として「海運の仕事」のコーナーを設け、(独)海技教育機構の海上技術学校及び海上技術短期大学校各校のホームページとの相互連携を図るとともに、「マイナビ進学」((株)マイナビ)及び「スタディサプリ進路」((株)リクルート)のサイトにも海上技術短期大学校5校それぞれの紹介ページを設ける等、各校の認知促進や資料請求の増加を図った。

(3) You Tube を活用した海技教育機関の認知拡大事業(Webオープンキャンパスサイト構築事業の見直し)

(独)海技教育機構の清水校、宮古校、波方校に引き続き小樽校のバーチャル学校見学サイトを制作・公表する計画であったが、それ以前に海上技術短期大学校や海上技術学校が世間的に知られていない問題を解決すべきとの認識がJMETS等の関係者間で一致したため、You Tubeなどで活用されている「ゆっくり動画」を活用し、内航海運の重要性や船員の仕事と生活、中学生・高校生向け進路情報、海上技術短期大学校等における実技や座学、校内練習船での航海実習や大型練習船での乗船実習など9本の短編動画を作成・公開し、これら学校の世間的認知度の向上を図った。

(4) 全般的広報宣伝事業

① 学校訪問等特別宣伝事業

(独)海技教育機構の学生募集に直接効果のある各校で作成する学校案内・オープンキャンパス案内、ポスターの作成・送付に対する支援を行うとともに、教員が行う学校訪問に対する支援を行った。

また、各校が実施する体験入学や学校見学会、地方紙・一般紙等の地方版及び受験案内雑誌、進学情報サイトへの広告掲載を行い、各校の生徒・学生募集に対する支援を行った。

② 講師(内航代表者)派遣事業

田渕海運(株)顧問の上窪良和氏を国立波方海上技術短期大学校に派遣し「内航海運の現状と内航船員の仕事」という演題で、エスオーシーマリン(株)の田中宏尚氏を国立宮古海上技術短期大学校に派遣し「内航船の魅力について」という演題で講演を実施した。

受講した学生たちの多くは、内航海運の現状や内航船員としての心構えなどのアドバイスを受け、将来の目標と課題が明確になり、改めて海技者となる自覚と学習意欲の向上につながる有意義な事業となった。

2. 海技教育内容充実促進事業

(1)「内航船員教育関係者連絡会議」の開催

(独)海技教育機構から船員教育機関の現状報告、日本内航海運組合総連合会及び(一社)日本旅客船協会から各業界の現状報告のあと、「船員を対象とした人的資本経営について～SCM(Seamen Capital management)で安全・安心・安定運航～」というタイトルで東ソーグループ コーウン・マリン(株)の取締役 人事担当部長の山下良一氏から、自社が取り組んでいる船員のニーズを捉えた待遇改善、アンガーマネジメント、健康対策、奨学金代理返済制度、乗船前の新人教育などについての講演があり、活発な質疑応答が行われた。

(2)デジタル教材の利活用に向けた調査・検討

ICT の活用により海技教育の質の向上と効率化を促進するため、海技教育機関の授業・実習で利活用できるデジタル教材が望まれていることから、海技教育におけるデジタル教材の現状、ニーズ調査、効果的な活用法等について調査・検討を行い、報告書としてとりまとめるとともに、海技教育デジタル教

材のプロトタイプ(海事法規)を作成した。

3. 海技教育機関支援事業

就職促進支援事業

国土交通省地方運輸局等が主催する「めざせ！海技者セミナー」に(独)海技教育機構の生徒・学生等が参加するための貸切バス等交通の便を確保するための支援を行った。

関東運輸局主催に33名、四国運輸局主催に117名、北海道運輸局主催に32名、東北運輸局主催に40名、神戸運輸監理部主催に21名、九州運輸局主催に50名、中部運輸局主催に111名、合計延べ404名の学生・生徒が参加した(ウェブ開催を含む。)

4. 学生等災害援助事業

該当する災害がなかった。

II. 学生等奨学金等貸与等事業

1. 奨学金等貸与等事業

(1) 奨学金貸与事業

- ① 令和5年度の新規採用奨学生は82名(前年度92名)で、奨学生定員213名(内航奨学生30名)に対する採用率は38.5%であった。
- ② 新規採用奨学生を含めた在学生への奨学金の貸与は254名(前年度284名)(うち内航奨学生64名(前年度67名))に対し、9,170万円の奨学金を貸与した。
- ③ 令和5年度末における貸与奨学生(一般奨学生、特別奨学生)は、1,040名(前年度1,180名)で、貸与奨学金の総額は、7億6,629万円であった。

(2) 奨学金返還事業

- ① 当該期間の貸与中奨学金の返還者は956名で、総額1億3,493万円の返還があった。
- ② 返還促進対策の実施

奨学金の期限切れの長期滞納者に対する返還促進を図るため、電話・文書による不足額請求のほか、内容証明による支払請求を実施し、一定の

成果を得た。

- ③ 期限内の長期滞納者についても同様の内容証明による支払請求を行って一定の成果を得た。

(3) 入学準備金貸与事業

海技教育機関への入学生で、入学準備金が必要と認められる生徒・学生25名に対し、入学準備金490万円を貸与した。

2. 奨学金給付事業

経済的理由により修業が困難な学生12名に対し、158万4,000円を給付した。

3. 特待生給付奨学金事業、

特待生給付奨学金を創設したが、これら奨学生に係る採用、給付等の実績はなかった。

4. 6級海技士養成奨学金貸与等事業

6級海技士養成奨学金を創設したが、これら奨学生に係る採用、貸与等の実績はなかった。

5. 表彰事業

(1) 人物・学業優秀者の表彰

令和5年度の海技教育機関卒業生のうち、各学校長から推薦のあった人物、学業の優秀な生徒・学生30名に対し、表彰状及び記念品を授与した。

(2) 練習船実習優秀者の表彰

(独)海技教育機構の練習船で実習訓練を受けた海技教育機関の生徒・学生のうち、実習成績が優秀な者9名に対し、表彰状及び記念品を授与した。

Ⅲ. 海洋研修等海事思想普及事業

1. 海洋研修事業

(1) 体験航海及び海洋教室実施事業

帆船「海王丸」を活用し、船や船員、海技教育への関心を高めるための青少年向けの海洋教室を1回(門司港)のほか、児童養護施設の児童を招待した海洋教室を1回(神戸港)行った。

また、一般向けの国内体験航海を2回(宇野港～徳山下松、徳山下松～長崎港)行った。

○海洋教室 2回 59(24)名

○国内体験航海 2回 15(10)名

()内は、女子で内数

(2) 研修生等災害補償事業

該当する災害がなかった。

2. 海技教育普及事業

練習船見学会等支援事業

(独)海技教育機構の練習船が主催する一般公開及び見学会において、海技教育機関の周知・宣伝、入学者の安定的な確保を図るためのパンフレット等を作成し、配布した。また、参加者に対する施設入場者損害保険及び施設賠償責任保険を付保した。

IV. 練習船航海訓練支援事業

海技者の養成を支援するため、保有する帆船「海王丸」を(独)海技教育機構に貸与した。

V. 物品販売事業

1. 海王丸グッズ販売事業

新型コロナウイルス感染症流行以降4年ぶりに練習船寄港地等5か所において帆船グッズ等の販売を行うとともに、ネットショップ等を活用して帆船「海王丸・日本丸」のグッズ販売を行った。

2. 売店等の運営による物品販売事業

(独)海技教育機構海技大学校構内の売店等において、物品販売事業を実施した。

表 1. 令和5年度奨学生の採用状況

(1) 一般奨学生

学 校 群		奨学生定員	1 学 年	2 学年以上	合 計	採 用 率
商船系大学		32 名	0 名	2 名	2 名	6.3 %
海技教育機構	海技大学校	5	2	0	2	40.0
	海上技術学校	34 (6)	18 (4)	2 (2)	20 (6)	58.8
	海上技術短期大学校	97 (24)	43 (23)	0	43 (23)	44.3
	計	136 (30)	63 (27)	2 (2)	65 (29)	47.8
商船高等専門学校	商船学科	40	11	2	13	32.5
	専攻科	5	2	0	2	40.0
	計	45	13	2	15	33.3
合計		213 (30)	76 (27)	6 (2)	82 (29)	38.5

(注) () 内は内航奨学生の内数

(2) 特別奨学生 (三号:特別奨学金による奨学生)

学 校 群	特奨三号奨学金による者
東京海洋大学	0 名
海上技術学校	3
計	3

(3) 給付奨学生

学 校 群	給付奨学金による者
海上技術短期大学校	12 名
計	12

(注)

商船系大学 東京海洋大学海洋工学部・神戸大学海事科学部

海上技術学校 小樽・館山・唐津・口之津海上技術学校

海上技術短期大学校 . . . 小樽・宮古・清水・波方海上技術短期大学校

商船高等専門学校 . . . 富山高等専門学校・鳥羽・弓削・広島・大島商船高等専門学校

表 2. 令和5年度奨学金貸与・給付状況

一般奨学生及び給付奨学生

学 校 群			合 計		
			一般奨学金	給付奨学金	計
商 船 系 大 学		人 員	9		9名
		金 額	4,800,000		4,800,000円
海 技 教 育 機 構	海 技 大 学 校	人 員	4		4
		金 額	2,040,000		2,040,000
	海 上 技 術 学 校	人 員	74 (21)		74 (21)
		金 額	19,942,000 (7,288,000)		19,942,000 (7,288,000)
	海 上 技 術 短 期 大 学 校	人 員	91 (43)	12	103 (43)
		金 額	35,700,000 (19,080,000)	1,584,000	37,284,000 (19,080,000)
	計	人 員	169 (64)	12	181 (64)
		金 額	57,682,000 (26,368,000)	1,584,000	59,266,000 (26,368,000)
商 船 高 等 専 門 学 校	商 船 学 科	人 員	71		71
		金 額	26,814,000		26,814,000
	専 攻 科	人 員	5		5
		金 額	2,400,000		2,400,000
	計	人 員	76		76
		金 額	29,214,000		29,214,000
合 計		人 員	254 (64)	12	266 (64)
		金 額	91,696,000 (26,368,000)	1,584,000	93,280,000 (26,368,000)

(注) ()内は内航船員育成奨学生へ貸与した人数、金額である。(内数)

表3. 令和5年度末奨学金の貸与状況

(1) 一般奨学生及び特別奨学生(一号)

学校群		貸与中員数			貸与中金額			
		一般	特一	計	一般	特一	計	
商船系大学	在学中	9名	0名	9名	9,264,000円	0円	9,264,000円	
	返還中	73	0	73	68,323,900	0	68,323,900	
海技教育機構	海技大学校	在学中	4	0	4	1,500,000	0	1,500,000
		返還中	53	0	53	33,551,800	0	33,551,800
	海上技術学校	在学中	65	0	65	41,717,000	0	41,717,000
		返還中	272	3	275	169,836,785	1,177,900	171,014,685
	海上技術短大	在学中	74	0	74	45,545,000	0	45,545,000
		返還中	158	0	158	73,458,149	0	73,458,149
商船高等専門学校	在学中	70	0	70	76,312,000	0	76,312,000	
	返還中	259	0	259	245,607,964	0	245,607,964	
計	在学中	222	0	222	174,338,000	0	174,338,000	
	返還中	815	3	818	590,778,598	1,177,900	591,956,498	
合計		1,037	3	1,040	765,116,598	1,177,900	766,294,498	

(注) 特別奨学生(一号)とは、学費の支弁が困難なため、加算された奨学金を貸与された者

(2) 特別奨学生(二号)

学校群		員数	金額
商船系大学	在学中	0名	0円
	返還中	0	0
海上技術学校	在学中	0	0
	返還中	0	0
商船高等専門学校	在学中	0	0
	返還中	0	0
計	在学中	0	0
	返還中	0	0
合計		0	0

(注) 殉職船員の子弟で、特別奨学生期間中の貸与額の半額返還免除を受けた者

(3) 特別奨学生(三号)

学校群	員数	貸与額
東京海洋大学	0名	0円
海上技術学校	3	75,000
合計	3	75,000

(注) 特別奨学生(三号)とは、全額返還免除の奨学金を受けた者

表4. 令和5年度奨学金の返還状況

項 目	商船系大学	海 技 教 育 機 構			商 船 高 専	計	
		海技大学校	海上技術学校	海上技術短大			
実返還	89 16,083,880	59 9,955,800	317 40,017,564	201 23,518,300	290 45,355,100	956 名 134,930,644 円	
免 除	一般免除	0 0	0 0	1 22,800	0 0	0 0	1 名 22,800 円
	特二免除	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 名 0 円
	免除計	0 0	0 0	1 22,800	0 0	0 0	1 名 22,800 円
消 滅	時効	0 0	0 0	2 858,000	0 0	0 0	2 名 858,000 円
	破産	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 名 0 円
	消滅計	0 0	0 0	2 858,000	0 0	0 0	2 名 858,000 円

(注) ① 各欄上段の数値は員数、下段の数値は金額を示す。

② 今年度中の完済者数は、138名である。

表5. 令和5年度入学準備金の貸与状況

商船系大学	海 技 教 育 機 構			商船高専	計
	海技大学校	海上技術学校	海上技術短大		
0	2	2	14	7	25 名
0	400,000	400,000	2,700,000	1,400,000	4,900,000 円